芦北町議会だより

うたせ

第75号
令和6年
2月6日発行

前進！ 令和2年7月豪雨災害の復旧・復興事業

佐敷川水系災害復旧助成事業(佐敷地区：井上医院裏付近)

- 12月定例議会の概要 …… P2
- 補正予算の概要 …… P3
- 一般質問 …… P4～5
- 議案の審議結果 …… P6
- 常任委員会・特別委員会の閉会中の継続調査 …… P7～9
- 議員視察研修 …… P10～11
- 議会のうごき・ちょっといっぷく …… P12

発行／熊本県芦北町議会　編集／議会広報委員会　TEL(0966)82-2511　FAX(0966)82-2894
印刷／㈲芦北綜合印刷

12月定例議会

12月定例議会は、12月12日に招集され、12月14日までの3日間の会期で開催しました。

上程された議案は、令和5年度一般会計補正予算及び特別会計補正予算計6件、芦北町国民健康保険税条例など条例の一部改正5件、財産の取得1件、教育委員会委員の任命に伴う同意など人事関係3件及び熊本県後期高齢者医療広域連合議会議員の選挙を含めた合計16件あり、いずれも審議の結果、原案のとおり全会一致で可決しました。

最終日には、2人の議員が登壇し、町政全般にわたり一般質問を行いました。

（議案の内容と結果は6ページに、一般質問の内容は4～5ページに記載）

教育委員会委員の選任に同意

藪（やぶ）　隆司（りゅうじ）氏
（八代市）
新　任

人権擁護委員に推薦

溝下（みぞした）　博行（ひろゆき）氏
（田浦4）
平成30年4月に就任され
今回で3期目になる

小崎（こさき）　富美（ふみ）氏
（女島西）
新　任

令和５年度補正予算を可決
4億4,807万円を追加

（金額は１万円未満を四捨五入）

会計名		補正額	補正後の総額
一般会計		３億４,９０４万円	１４７億１,３３５万円
特別会計	国民健康保険事業	７,９３７万円	３０億３,５７６万円
	介護保険事業	１,７３５万円	２４億７,６０１万円
	農業集落排水事業	１１２万円	２億　８８９万円
	生活排水処理事業	８４万円	６,１８４万円
	町有温泉事業	３５万円	１億３,７９２万円
今回補正がなかった会計（後期高齢者医療事業 外）			３億５,９１０万円
合計			**２０９億９,２８７万円**

主な事業 ◎一般会計

- **物価高騰重点支援給付金事業**…… **１億６,９３９万円**
  エネルギー・食料品価格等の物価高騰による負担増を踏まえ、
  家計への影響が特に大きい住民税非課税世帯に対し７万円／世帯の給付
- **キャッシュレス決済ポイント還元事業**…… **６,０００万円**
  町内店舗でのキャッシュレス決済利用と導入促進
  還元率20%（還元上限額　１万円／人・１決済事業者）　※３回目
- **障害児通所給付費扶助費**…… **１,３１３万円**
- **子ども医療扶助費**…… **５６６万円**
- **木造住宅建築支援事業**…… **４７７万円**
- **宅地嵩上安全確保事業**…… **３６１万円**
- **有害鳥獣被害防止対策事業**…… **３０６万円**

木造住宅建築支援事業

キャッシュレス決済ポイント還元事業

一般質問（抜粋）

安くて安全でおいしいあしきたの水道水
給水人口減少等厳しい環境下の
上水道経営の課題を問う！

楠原清照 議員

質 上水道事業の経営の状況等はどうなっているのか。

答 **竹崎町長**

芦北町水道事業経営戦略に基づき計画的に事業を実施しており健全な経営状況にある。将来にわたり安定した経営を維持する。有収率は県平均レベルに引き上げたい。

答 **平田上下水道課長**

答弁は表1のとおり。

【まとめ】 ①老朽水道管24kmの早期更新を。②有収率の向上を。③国に強力な支援要請を。

（表１）芦北町上水道施設の概要等

経営方針	安定した水道水の供給
給水区域	計石、芦北、湯浦、田浦、海浦、女島、滝の上・野添地区
給水戸数	4,834戸　給水人口：10,749人　年間総給水量125万6,931㎥(3444㎥/日)(令和5年3月末現在)
水源	12か所　計画取水量7,000㎥/日　実取水量約4,500㎥/日 ※水量は必要十分な量を確保
配水池	９か所　総容量4,300㎥ (城山配水池1,840㎥、湯浦配水池1,060㎥、田浦宮田配水池576㎥、その他6か所824㎥)
水道管	総延長111.4km　現在耐用年数40年以上経過水道管約24km(全体の22%)漏水件数約50件/年　有収率75%(漏水等による損失25%)　最大口径：300㎜(耐震管) 課題：老朽水道管の計画的更新による有収率向上　更新コスト縮減　使用料の見直し等

【参考】有収率：「配水量」に対する「有収水量」の割合。漏水や無駄な使用を防ぐための重要な指標

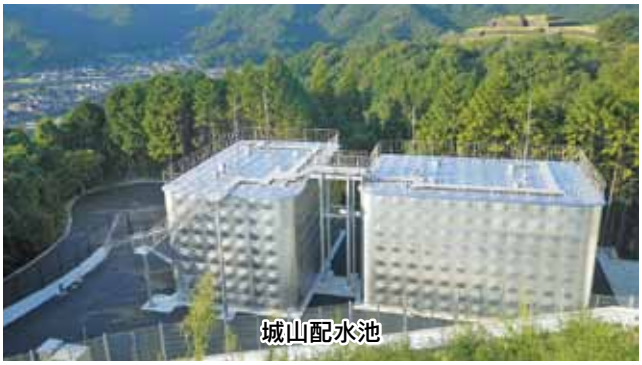
給水原価163.72円／㎥、供給単価177.98円/㎥、利益14.26円、利益率８%、１ℓペットボトル１本分供給価格0.17798円、１円で5.6ℓ供給、10円で１ℓペットボトル56本分供給（Ｒ４年度決算・税込）※400ℓ浴槽１杯分で約71円

多目的研修センターの現状等について問う！

質 利活用を促進するため料金体系の見直し、申請手続きの簡素化や、施設を改修する考えはないか。

答 **竹崎町長**

当該施設の利活用促進及びその他の多様な取組により湯浦地域全体の活性化を進めていく。



城山配水池

答 **栫農林水産課長**

料金体系については利用実態に合わせて今後見直しを検討する。申請手続きの簡素化についてはＤＸ推進の方向性に沿って検討する。改修については長寿命化に向け検討する。また、地域住民のニーズを踏まえ施設の有効利用ができるよう考える。

【まとめ】 ①湯浦の拠点施設として積極的な利活用促進を。②湯浦温泉の歴史を残す場に。③福祉センターと一本化し新たな複合施設の検討を。

多目的研修センター

一般質問（抜粋）

長口　隆 議員

中山間地域農業林業の担い手育成対策はどうする！

質 令和４年９月議会定例会で質問した自伐型林業の推進・支援について、その後どうなったか。

自伐型林業者を目指す町外からの転入者を地域おこし協力隊として、町内自伐型林業者等の下で、技術習得を行い育成支援する考えはないか。

農業者の高齢化による担い手確保対策はどうするのか。

答 **竹﨑町長**

本町の農林業従事者数は年々減少しており、中山間地域農業林業の担い手の育成については、喫緊の課題であるとともに、全国共通の課題でもあると認識している。

林業については、森林環境税などの制度を活用しながら、自伐型林業による担い手育成を促進していく。そして、森を守り育てながら、森林資源の循環的利用促進を図りたい。

自伐型林業

答 **桁農林水産課長**

自伐型林業の先進地である高知県佐川町などを視察し、取組や方向性を具体的に検討した。自伐型林業の推進には施業地となる森林の集約化と、担い手の確保・育成が必要であり、地域おこし協力隊の活用や林業に興味のある地域住民、Ｕターン人材の発掘を行い、町内自伐林家や自伐型林業推進協会、水俣芦北森林組合と連携し技術習得研修を実施する。令和６年度から事業展開を計画している。

質 視察した高知県佐川町の地域おこし協力隊の活用、管理面積及び林業者の状況は。

答 **桁農林水産課長**

佐川町では、地域おこし協力隊制度の活用で39名が着任、26名が町に定着し、その内林業従事者として16名が活躍している。町への委託希望約７００haの内、約１５０haを契約し森林整備を進めている。

質 先進事例の手法をそのまま取り入れ、転入者の生業が成り立つ芦北町独自の政策を期待する。これが成功すると、中山間地域農業林業の担い手確保に繋がり、衰退しつつある地域コミュニティが活性化する。町長の見解は。

答 **竹﨑町長**

地域おこし協力隊を積極的に動員しているが、提案の点についても積極的に取組み、マンパワーを確保して、我が町の実情を理解して頂いて、先々は定着して頂くことを期待したい。

佐敷城跡周辺の環境整備はどうする

質 旧社会教育センターの活用方針は立てているのか。

国史跡である佐敷城跡の閉鎖されている本町側からの登城ルートの整備計画はどうなっているか。

答 **岩田教育長**

社会教育センターの活用については、平成30年12月の全員協議会で解体の方向で説明している。令和２年７月豪雨で被災したので、今後、解体等の具体的なスケジュールについて総合計画に位置づけて取り組んでいきたい。

本町側からの登城ルートも、令和２年７月豪雨で被災し、土砂が堆積していたが今年度から園路の土砂撤去作業を進めている。今後、通行の安全が確保されたら、登城ルートの一つとして利用できるよう適切な維持管理に努める。

佐敷城跡本町側からの登り口

質 佐敷城跡周辺には、イノシシなどの被害が発生しているが、その対策は講じているのか。

答 **岡田スポーツ・文化振興課長**

今年度、斜面の間伐に取組んでいる。伐採終了後は、防獣フェンスやネットを順次配置し、国史跡への害獣の移動・流入を制限する。

令和５年 第５回芦北町議会12月定例議会　審議結果

区　分	議　案	内　容	審議結果
議案第49号	令和５年度芦北町一般会計補正予算(第５号)	概要等は、Ｐ３に掲載	可　決 (全会一致)
議案第50号	令和５年度芦北町国民健康保険事業特別会計補正予算(第２号)		
議案第51号	令和５年度芦北町介護保険事業特別会計補正予算(第２号)		
議案第52号	令和５年度芦北町農業集落排水事業特別会計補正予算(第２号)		
議案第53号	令和５年度芦北町生活排水処理事業特別会計補正予算(第１号)		
議案第54号	令和５年度芦北町有温泉事業特別会計補正予算(第２号)		
議案第55号	芦北町一般職の職員の給与に関する条例及び芦北町一般職の任期付職員の採用等に関する条例の一部を改正する条例の制定について	熊本県人事委員会勧告に基づく増額改定 一般職：給料1.1%(平均) 期末・勤勉手当それぞれ0.05月 再任用・特定任期付き職員期末手当：0.05月	
議案第56号	芦北町長等の給与及び旅費に関する条例の一部を改正する条例の制定について	国の特別職の職員の給与に関する法律の改正にあわせて、町長、副町長、教育長の期末手当を0.1月増額改定	
議案第57号	芦北町議会議員の報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例の制定について	国の特別職の職員の給与に関する法律の改正にあわせて、議会議員の期末手当を0.1月増額改定	
議案第58号	芦北町国民健康保険税条例の一部を改正する条例の制定について	国の法改正に伴う条例の一部改正(出産予定又は出産した被保険者がいる場合に、世帯主に賦課する国民健康保険税のうち被保険者に係る所得割額及び均等割額を減額する改正)	
議案第59号	芦北町行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律に基づく個人番号の利用及び特定個人情報の提供に関する条例の一部を改正する条例の制定について	国の法改正に伴う条例の一部改正(マイナンバーの利用範囲の拡大及び情報連携に係る規定の見直しを行ったことによる)	
議案第60号	財産の取得について	町内で発生する土砂の受入先として設置した萩の越残土処理場用地の土地取得のため	
同意第２号	教育委員会委員の任命につき同意を求めることについて	概要等は、Ｐ２に掲載	同　意 (全会一致)
諮問第１号	人権擁護委員の推薦につき意見を求めることについて		適　任 (全会一致)
諮問第２号	人権擁護委員の推薦につき意見を求めることについて		

総務厚生常任委員会

災害に対する危機管理体制の現地調査

委員長：林田　燿宏　　副委員長：楠原　清照
委　員：岡部恵美子・川尻　成美・元山　秀志・百田　翔吾

11月17日、災害に対する危機管理体制の調査として、伏木氏、花岡の防災倉庫等の現地調査を実施しました。「孤立対策用防災倉庫」及び「防災倉庫(小規模物資拠点)の2か所(伏木氏、交流センター)と「花岡高台」について総務課から説明を受けました。

まず、孤立発生の可能性がある集落に設置されている「孤立対策用防災倉庫」のある伏木氏地区へ向かい、倉庫に収納してある発電機、ブルーシート、照明、扇風機などの資材を確認しました。この孤立対策用防災倉庫は、伏木氏をはじめ現在13か所に設置されています。

孤立対策用防災倉庫(伏木氏地区)

次に花岡高台へ移動しました。この花岡高台は、国土交通省が令和2年7月豪雨で堆積した球磨川の土砂を洪水から身を守るための1次避難所として芦北インターの横に整備し令和3年8月に完成、その後、町が仮設トイレ2基、外灯4基を整備、令和4年9月1日に指定緊急避難場所として指定し、状況に応じて開設しています。平時は地区の住民がグラウンドゴルフで利用されています。

最後にしろやまスカイドーム横の交流センターへ向かい「防災倉庫(小規模物資拠点)」を確認しました。

「防災倉庫」については、町の主要避難所等に8基整備され、そのうちの2基が交流センターに設置されています。基本的に食料(250人×3食×3日を目標に備蓄)や資機材を備蓄する倉庫となっています。

防災倉庫(小規模物資拠点)(スカイドーム横交流センター)

現地調査後は、令和2年7月豪雨以降、特に住民の防災意識の向上や地域防災力の強化が図られていることを労うと共に、引き続き町民の生命と財産を守る為、災害に強い町づくりへの対策に努めていただくよう執行部へ要望し、委員会を終了しました。

建設経済文教常任委員会

小中学校におけるＩＣＴ機器を活用した授業等に関する調査

委員長：草野　安道　　副委員長：白坂　康浩
委　員：寺本　修一・宮尾　秀行・寺本　順一・坂本　登・長口　隆

11月29日、佐敷中学校２年生の理科の授業を参観し、ＩＣＴ機器を活用した授業状況を調査しました。

担当の先生の横にはパソコンと電子黒板があり、写真や映像等を活用し子どもたちの関心・興味を高める指導方法としてＩＣＴ機器が効果的に活用されていました。授業参観後、校長室において光山校長及び教育委員会から学校におけるＩＣＴを活用した学習状況の説明を受けました。

ＩＣＴを活用した理科の授業を参観（２年２組）

説明後の質疑で、委員から「体育の時間に個人の動き等を撮影し、生徒が自分で確認できる使い方はＩＣＴ特有の良い活用方法だと思う。部活での使用もできるのか。」との質疑があり、担当者から「現在、部活では使用していない。授業内だけの使用としている。」との回答がありました。

生徒に貸与されている
タブレット

最後に、当委員会から今後も引き続き、学校教育の充実等に取り組んでいただくようお願いして、委員会を閉会しました。

校長室にて概要説明を受け、質疑応答

【主な質疑応答】

質　　疑	回　　答
生徒が各自所有のタブレットへ解答する場合、教師はそれぞれの解答内容がわかりにくいのではないか。	教師のタブレットは、生徒のタブレットと共有しているため、把握できている。また、生徒全員の解答を電子黒板等へ一括表示することが可能なため、解答できない生徒は他の生徒の解答を参考に自分の解答を作るよう指導している。
他にどんな活用をしているのか。	今まで台湾の小学校とオンライン交流を行っており、令和５年５月にその小学校が訪日し交流した。他にも、大野小学校が県内の同名校とオンライン交流を行う話が進んでいる。

令和２年７月豪雨災害復旧・復興対策調査特別委員会

〔災害復旧事業〕佐敷川・湯浦川の復旧・復興対策に関する現地調査

委員長：宮尾　秀行　　副委員長：楠原　清照
委　員：寺本　修一・川尻　成美・坂本　登・林田　燿宏・長口　隆

11月24日、令和２年７月豪雨災害復旧事業について、県の事業である佐敷川水系災害復旧助成事業(井上医院裏)及び湯浦川自然債河川改良(緊急)事業(ささ原温泉前)の現地調査を行い、工事の進捗状況等を確認しました。

まず、建設課長から建設課関係(県・町工事)分の進捗状況について説明があり、令和５年10月末現在の進捗率は64％(完了工事件数÷全体工事件数)で、復旧工事は順調に進んでいます。

各工事現場の状況等については、熊本県芦北地域振興局土木部の工務第二課及び工務第一課職員から説明を受けました。説明については次のとおりです。

①佐敷川水系災害復旧助成事業(井上医院裏)

事業名	説明概要
①佐敷川水系災害復旧助成事業 【工務第二課】	・佐敷川水系(佐敷川、宮浦川、田川川)全体の災害復旧助成事業の事業進捗状況の説明 ・現地調査場所である「藍川堰」について、ゲートを高くした堰を現況より90m上流付近に新設する。
②湯浦川自然債河川改良(緊急)事業 【工務第一課】	・湯浦川(湯浦橋から湯町橋までの約500m)の河道掘削を令和６～７年度に実施するが、そのための護岸補強(根継ぎコンクリート)を令和５～６年度で実施する。 ※最大掘削深：湯浦川橋付近1.03m、湯の香橋0.73m、湯町橋0.66m

【主な質疑応答】

質　疑	回　答
①佐敷川水系災害復旧助成事業(井上医院裏) ア　堰の位置が上流側に変更になるが、用水路も延長させるのか。 イ　堰の基礎杭の延長はどれくらいなのか	(熊本県芦北地域振興局工務第二課) ア　農地用水や地区の防火水槽も兼ねているので、変更位置まで延長する。 イ　直径1000㎜の杭をＬ＝10m程度打ち込む。
②湯浦川自然債河川改良(緊急)事業 ア　掘削は、どの程度行うのか。 イ　今回の場所を掘削したら、下流部の河床が高くなるのではないか。 ウ　今回土砂を撤去するが、来年度以降も梅雨等で再度堆積するのではないか。	(熊本県芦北地域振興局工務第一課) ア　最大で１m程度掘削を行う。 イ　そのようなことが起こらないように十分注意して施工を行う。 ウ　今後の対応として、梅雨等で堆積するようであれば、定期的に土砂掘削を行っていく。

次回は、農林水産課関係の災害復旧・復興対策事業調査を実施する予定です。

②湯浦川自然債河川改良(緊急)事業(ささ原温泉前)

議員視察研修報告

少子対策 ～町全体での子育て～（岡山県奈義町）
企業誘致・廃校利活用 ～おかえり集学校～（鳥取県倉吉市）

昨年の12月19日から3日間の日程で岡山県奈義町と鳥取県倉吉市の2か所を視察しました。

岡山県奈義町

岡山県奈義町は、岡山県北東部に位置し鳥取県に隣接する人口5,700人余の町で、2005年時点で1・41だった合計特殊出生率が、2019年には2・95（全国平均1・36）まで回復し、全国的に〝奇跡のまち〟として知られ、自治体関係者からの視察が絶えない町です。令和5年2月には「異次元の少子化対策」を掲げる岸田首相も町の取組みを視察されています。視察当日も本町議会のほか山梨県、兵庫県、長崎県の町議会や鳥取大学の学生計46人と共に研修を受けました。

奈義町は、少子化対策は最大の高齢者福祉ともとらえ、高齢者向け中心から若者・子育て世代向け施策を段階的に拡充し、経済的支援のみならず精神的支援が図られています。

本町でも国に先駆けて各種施策（子ども医療費・学校給食費の無償化など）を実施していますが、奈義町では在宅育児保護者への支援金や高校生への就学支援（交通費）、大学進学のための町独自奨学育英金について、卒業後の町への定住期間の返済免除など、切れ目ない支援を実施されています。

また、本年9月には町内保育園でおむつのサブスクを導入するなど保護者の負担軽減と保育現場の業務効率化に取り組まれています。奈義町では地域ぐるみの子育て拠点「なぎチャイルドホーム」の存在が、若い世代の訪れやすい場所となっており、町民同士で支えあう子育てサポートとして大きな役割を果たしているようです。

奈義町での研修の様子

担当者の話では、奈義町の子育て世帯の多くは3人以上の多子世帯であるとのこと。「なぎチャイルドホーム」は若い母親の多くが子連れで集う支援施設であり、施設がサービスを一方的に提供するのではなく、保護者のニーズを住民参加型の施策として反映させサポートしています。住民同士のつながりが安心感となり、子育てしやすい町となっていると感じました。また、子育て中の保護者や高齢者が空いた時間を活用し働く「しごとコンビニ事業」など、町民が地域とかかわる仕組みを展開され

使わなくなった制服・体操服を持ち寄って安価で提供（なぎチャイルドホーム）

奈義町役場庁舎前

ているほか、全町民へ電子カード「ナギフトカード」を発行し、給付金の交付や電子版地域活性化支援券としてＩＴを活用した取組も進められていました。

注目を浴びている奈義町ですが、現在の課題は、若者世代の住む場所の確保や施設職員等の人材確保とのことでした。町では新規移住者の確保よりもＵターン・Ｉターン者の増加、〝戻りたくなるまちづくり〟を目指されていました。

旧教室を活用した研修室

鳥取県倉吉市

本町に２０２４年４月「海浦集学校」（旧海浦小学校）が開校するにあたり、今回鳥取県倉吉市にある「山守集学校」を視察しました。

「おかえり集学校」とは、廃校を活用して再び人々の集う場所を目指すと共に、ＩＴ機器を役立てて地域の方々の暮らしを豊かにしたいという思いのもと始動したＩＴ交流施設のプロジェクトです。（現在、開校予定を含め全国に22校）

集学校事業は、地域貢献に主眼を置いており収益の得られない事業も多く、円滑な事業実施を行うため、令和５年３月から一般社団法人おかえり集学校が事業主体となっています。

《本事業の主なメリット》
・廃校（空き教室）の活用
・事業主体法人が管理運営を行うため、維持費が不要（管理委託料や光熱水費）
・町民がＩＴ機器（ＰＣやスマホ）等の操作相談や購入が可能となる。
・コミュニティスペースとしての交流拠点ができる。

山守集学校内の様子

今回の視察先の「山守集学校」は、平成28年３月末に統廃合のため閉校した木造の校舎を活用し、とてもきれいな校舎でありました。過疎化が進む地域であるため、毎日大勢の町民が訪れる状況ではないようですが、同法人が企画するイベント時には市外の近隣住民も集まるなど賑わいをみせているようです。

また、倉吉市企画課から今後の取組み事業である乗合タクシーの運行や買い物支援等ＡＩデマンド「関金地区版シュタットベルケ」について、一般社団法人おかえり集学校と連携し取組を進められているとの説明がありました。

現在、スマートフォンをはじめ生活の中にＩＴ機器が身近なものとなっており、「海浦集学校」の開校後には、相談する場所ができることで、芦北町民が便利なものをさらに暮らしに生かしながら、町民誰もが集える場所となるよう期待するとともに、活用状況など町議会としても注視していく必要があると考えます。

山守集学校校舎前

令和５年度 町村議会広報研修会

11月10日に熊本県市町村自治会館で議会広報研修会が開催され、本町議会からも広報委員会委員５名が参加しました。

それぞれの参加者が事前にクリニック希望町村の広報紙を熟読し、感想や意見が提出され、それを基に研修会が進められました。

講師の議会広報ファシリテーターで熊本大学客員教授の越地真一郎氏からは、「学ぶ」の語源は「真似る」であるので全国の上位入賞の広報紙などをヒントにオリジナルの広報紙を生み出してほしいとの話がありました。

研修での学びを今後の議会広報づくりに役立てたいと思います。

議会のうごき

令和５年

１１月１０日	町村議会広報研修会
１１月１７日	総務厚生常任委員会(閉会中の継続調査)
１１月２４日	令和２年７月豪雨災害復旧・復興対策調査特別委員会
１１月２８日	熊本県関係国会議員への要望・意見交換会(全国町村会館)
１１月２９日	第67回町村議会議長全国大会(NHKホール)
１１月２９日	建設経済文教常任委員会(閉会中の継続調査)
１２月　６日	議会運営委員会
１２月　６日	議会全員協議会
１２月１２日	１２月定例会開会(議案審議)
１２月１４日	１２月定例会閉会(一般質問)
１２月１４日	議会広報委員会
１２月１９日～２１日	芦北町議会議員研修(岡山県奈義町・鳥取県倉吉市)
１２月２５日	水俣芦北広域行政事務組合議会

令和６年

１月１６日	議会広報委員会
１月２３日	町村議会議員研修会(オンライン)

次の定例議会は３月開催の予定です。

議会や議会だよりに対するご意見・ご要望は
芦北町ホームページの問い合わせから、またはE-mail gikai-jimu@town.ashikita.lg.jp まで

議会の会議録は、芦北町ホームページに掲載しております。

ちょっといっぷく

令和６年元旦は、穏やかな晴天に恵まれ神々しい初日の出を拝することができ、素晴らしい年の初めだなあと過ごしていました。

ところが夕刻には、石川県能登半島沖を震源とする震度７の大地震のニュース速報が流れ驚きました。火災が発生している輪島市の映像を見ると、冬の寒さの只中言語に絶する災難に遭われた、被災者のご苦労が身に染みて心が痛みました。一刻も早い救援が届けられるよう祈るばかりでした。

芦北町も令和２年の豪雨災害を経験しましたが、天変地異の災難は、何時やってくるか分かりません。

地震常襲地帯の能登半島地域は、他地域より地震防災意識の高い住民の方々であろうと思いますが、映し出される被災状況はすさまじく、やはり自然の猛威は測り知れないものがあります。

芦北町西方には、日奈久断層が走っており、この出来事を貴重な教訓として、備えを怠らないようにしたいものです。

（長口　隆）

議会広報委員会

委員長	楠原　清照
副委員長	長口　隆
委員	川尻　成美
〃	宮尾　秀行
〃	寺本　順一
〃	林田　燿宏